

拍手いっぱい、笑顔いっぱい、楽しさいっぱい

第5回吉川区敬老会に290人

15日は吉川区の敬老会です。上越市になつてからの敬老会は雨や風に泣かされたことは一度もありません。この日は天気が良くて、アトラクションも盛りだくさん。歌あり、踊りあり、マジックありで、大いに盛り上がった敬老会となりました。

式典では中川周一副市長が主催者を代表して、「きょうは、高沢入の92歳の山本しんさんをはじめ、300人近い人たちからご参加いただいた。皆さんは、戦前、戦中、戦後と郷土を築いてこられた。心から感謝申し上げます。これから長生きしてください」と挨拶しました。また、山岸行則議長も挨拶、「NHKで『天地人』が放映されているが、これが採用されたのは、いまの世の中で義と愛の心が足りな

いからだと聞いている。上越の地で、この心身に付けている皆さんからぜひ若い人たちに伝えていただきたい」とのべました。

昨年已经连续して今年度も参加対象者は75歳以上でした。区内の対象者は984人、このうち290人ほどの方が参加されました。会場はいつもと同じ長峰温泉ゆつたりの郷ゲートボール場です。アトラクションの時間になり、酒も入って、会場内では、「久しぶりだね」「元気かね」と言葉を交し、握手する姿があちこちで見られました。

アトラクションは、まず琴永会の皆さんが唱和の懐かしい曲を演奏。続いて、毎回駆けつけてくださる吉川踊りの会の皆さんが素敵な踊りを披露してくださいました(写真上)。その後は、



長岡市小国町出身の歌手、中山あかりさんや上越市高田のマジシャンクラブ代表、ジョーク峰さんの本格派マジック、ゆつたりの郷従業員による「麦畑」の劇と続きました。中山あかりさんは歌と踊りだけでなく、林家こん平と同郷の人だけあって「しゃべり」も上手でした。「きょうの敬老会は50歳からなの？皆さん、お若いんですね。そばに行ってみようかしら」と言っ

て観客席に下り、「やっぱ若い、それなりの顔をしていらっしやる」。『日本全国幸せに』という唄に合わせて「はー、よいしょ」と踊って、「暗くなっても私はあかりです」とやる、見事でした。

見事と言えば、第二部のアトラクションを請け負った地元、ゆつたりの郷従業員の皆さんによる踊りと劇も楽しさ満点でしたね。中村支配人ともう一人が歌うオネーズの「麦畑」に合わせて、お面をかぶった「かかし」「およね」「松つつあん」役などの皆さんが個性あふれる動きをみせ、会場は笑いの渦に(写真下)。とくに、「松つつあん」が「およね」を抱き寄せ、腰をあやしげに動かす場面では爆笑でした。それにしても、「松つつあん」役の人が女性だとは気づきませんでした。

敬老会が終わって、参加者の皆さんからは、「きょうはおもしろかったでね。ありがとね」「いかった、いかった」などという声があがっていました。

シリーズ 上越市内の橋

第13回 桜町橋



「桜町橋」と書いて「さくらまちばし」と読みます。柿崎区桜町集落の西側の吉川にかかった橋です。橋のすぐ上流に大きな水道管橋がかかっています。この二つの橋を遠くから見ると、『マディソン郡の橋』(米映画。アカデミー賞受賞作品)のようだという人もいますが、どうでしょうか。橋長は約42メートル。2006年(平成18年)の10月竣工。

国内最大のナメコ生産施設を視察

市議会食料・農業・農村議員連盟

市議会食料・農業・農村議員連盟は16日、キノコ栽培などを行っている十日町市や上越市の安塚区の視察を行いました。松之山ではナメコ栽培、松代はレタス栽培、安塚区はシイタケ栽培の視察です。私を含め7人の市議が参加しました。

今回の視察目的は豪雪地帯での通年農業の先進的な取り組みを学ぶことです。3か所を視察して、「雪がたくさん降るから冬場の農業はダメ」という先入観は吹き飛ばされました。豪雪地帯でも頑張れば農業生産は可能という実例を見て参加者は感動しました。農村部に進出してきた企業がここ十数年の間に次々と撤退するなかで、農業関係の施設が残っている、そこが地元の大事な雇用の場となっている、これにも改めて注目しました。

豪雪地帯に日本一の、ナメコの巨大な生産施設があるとは知りませんでした。場所は十日町市松之山、有名な美人林へ行く途中です。

この施設では、ゆきぐに森林組合、有限会社松之山きのこ、JA十日町がそれぞれ仕事を分担し、最先端の技術を駆使してナメコ生産を行っています。

培養、発生、パッケージのほとんどを機械でやり、年間364日稼働、年間1200トンものナメコをジャスコなどに出荷しているそうです。ベルトコンベヤーが動き、ポトルで育ったナメコを全国では二つしかないという機械がカットする(写真上の様子を見ていたら、栽培施設というより、工場という気がしました)。

議員連盟では今回の視察の成果を後日確認し合い、市政への提言に結び付けていく考えです。



吉川の味と人を求めて3800人

第12回越後よしかわ酒まつりが11日、杜氏の郷前広場などで開催されました。今回も好天に恵まれ、会場には約3800人もの人たちがつどいました。

杜氏の郷前広場では、今年も各種団体・グループのみなさんが多くの店をだして盛り上げました。吉川産のコメや野菜、農産加工品などいずれも売れ行きは順調でした。吉川高校同窓会の皆さんのテントには先週号で紹介した記念ボールを確認する人や懐かしい思い出話をする人などで賑わいました。メインの酒ですが、利き酒の会場では、今年の祭りを上回る約400人が挑戦しました。(株)杜氏の郷の酒も売れました。売上は去年の1.4倍にもなったそうです。

お昼のオープニングセレモニーでは友好都市関係にある東京都荒川区の三島重信副区長さんや東京吉川会の関沢英雄会長さん、新潟県内の酒造関係者などが登壇し、お祝いと励ましの言葉をのべてくださいました。三島副区長さんは今年も荒川区の商店街の歌をよしかわ酒祭り版にかえて披露、見事な歌声に会場は拍手喝さいでした。

第5回吉川区駅伝、旭ランナース雪辱

今年の駅伝には安塚区の2チームを含め12チームが参加。優勝したのは昨年2位に甘んじた旭ランナースで、タイムは1時間10分14秒でした。2位は昨年優勝の骨太チーム、今回は1位と3分29秒の差をつけられました。



【写真上】地区会議や各種団体などがテントで吉川ならではの特産物などを販売。【写真下】どこの祭りでも盛り上げてくれるよさこいグループの皆さんです。